

幹事・運営委員と県東部選出県議団・ 市長町長連絡会議との合同会議

■ 日時 2019年3月27日
■ 会場 サンフロント9階ミーティングルーム



2018年度最後の事業となるサンフロント21懇話会幹事・運営委員と県東部選出県議団・市長町長連絡会議との合同会議が開催され、2019年度活動方針が示された。方針は大きく4つ。『地域創生につながる新産業創出支援』では東京五輪パラリンピック開催を契機とした東部地域におけるスポーツ産業の推進支援、AOIパーク開所を契機としたファルマバレープロジェクトとアグリオーブンイノベーションプロジェクトの支援、富士市周辺におけるセルロースナノファイバーの用途開発に向けた認知度向上支援。『新たな観光価値創造への取り組み支援』では茎山反射炉ガイダンスセンター・富士山世界遺産センターを核とした学習型観光、ヘルスツーリズムやサイクリツーリズムとの連動、伊豆縦貫道の天城北道路開通による観光価値創造への支援。継続活動である『動物愛護と福祉思想の普及活動支援』、『原・浮島地区まちづくり構想実現支援』が提示された。

会議の後は、時事通信社経済部長の小島洋氏が消費税増税を控えた日本経済の動向について講演した。

主 催 者 挨 拶



静岡新聞社常務取締役
谷 川 治

年度末のお忙しい中、また統一地方選挙を控えた中、サンフロント21懇話会の合同会議にご出席いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。官民一体となって県東部の振興と活性化を目指して活動する当懇話会も結成25年目を迎えました。ひとえに会員の皆さまのご支援ご協力の賜物と深く感謝しております。

本年度は5月の総会に始まり、8月は伊豆地区分科会でジオからの恩恵と観光振興について、11月の東部地区分科会では人生100年時代の長寿社会、3月には富士山地区分科会が五輪後のレガシーと地域振興について取り上げました。2019年度の活動についても引き続きご理解ご支援をお願いしたいと思います。

本日は時事通信社経済部長で経済のエキスパートでもある小島洋様をお迎えし、消費税増税後の日本経済の動向についてお話をいただきます。消費税増税後の景気の冷え込みに対する対策はいくつか検討されていますが、いろいろと参考になるお話をうかがえると期待しております。

市長町長連絡会議会長挨拶

本日サンフロント21懇話会の合同会議がこのようにご関係の皆さま多くご参集のもと開催され、心よりお喜び申し上げます。皆さま方におかれましては日頃より沼津市のみならず静岡県東部の各自治体のまちづくり、産業振興、経済活性化等にご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

ご承知のとおり4月には改元による新元号の発表、5月には新天皇の即位という大きな時代の節目を迎えます。私ども沼津市には御用邸があり、皇室とのご縁も深いものがございます。また4月から6月にかけ、JRの国内最大級の観光キャンペーン「静岡DC」が開催されます。この機をとらえ、沼津市をはじめ県東部地域の観光資源をしっかりと発信していきたいと考えております。

2020東京オリンピック・パラリンピックの開催まで500日を切りました。世界各国のアスリートが日本に集まり、ここ静岡県東部伊豆地域では自転車競技が開催されるということで、スポーツツーリズムへの展開も期待されるところでございます。

この地域は幸いにしてAOIパークやファルマバレーセンター等産業集積の研究開発拠点施設が充実しております。これらを最大限に活用させていただき、県東部地域における健康長寿日本一の食の生産や体制づくりが出来ればと願っております。

サンフロント21懇話会は25年にわたる様々な活動の中で多くの実績を残しておられます。中でもキラメッセ沼津の活用については大きなご支援をいただいており、心から感謝申し上げます。来年2月には日本商工会議所青年部の全国大会が参加者8000名規模で開催されますので、おもてなしの体制をしっかりと整えてまいりたいと思っております。本合同会議が皆様にとって有意義なものとなることをお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。



沼 津 市 長
頼 重 秀 一

講 演

消費税増税後の 日本経済の動向

時事通信社経済部長

小 島 洋 氏



マクロ経済とは個人・企業活動の集合体

私は父母を連れて毎年お正月にこの近くの畠温泉に来ております。この2年ほど母が具合を悪くし、ご無沙汰しておりますが、今年の正月には皆さま方の懇話会の会報誌に2019年の国内景気動向について寄稿させていただきました。今日はそのフォローアップのお話をさせていただければと思いますが、経済アナリストのように立て板に水の、総花的な話を進めて物事の本質は見えにくいところもありますで、新聞記者らしく、私たちがどんなことを考えて取材活動をしているのかを知っていただければと思っております。

よくマクロ経済という言い方をしますが、政府や大手アナリストなどが景気分析をした結果をもとに、私たちも経済の動きを追っていますが、マクロ経済とは個人や企業の活動の集合体でもあります。これが非常に重要な点で、かりにマクロ経済が悪いと言われても必ずしも悲観するものではないと常々感じております。

たとえば行列ができる店はどこにでも必ず存在します。すべてではないでしょうけれど元気な商店街は必ず人を集めていますし、観光客で人がふれる地方はいつの時代も存在します。日本経済の動向をマクロでとらえるのはとても大事ですが、各界でご活躍されている皆さまの中であらゆる情報を集め、そこから物事を考え、編み出していくことを少し考えていただけたら嬉しいなと思います。

不安心理と合理性

まず株の動きからお話しします。今週に入り、日経平均株価が少し動いております。月曜に株価下落が起こったのはドイツやフランス等日本から離れたヨーロッパの経済指標が原因で、ヨーロッパの製造業に関する指数が悪化したものです。OECD（経済協力開発機構）の経済予測によると、2019年の世界経済は全体に成長率が低くなると見ています。18年までは勢いがあったものの、現時点では異なる様相を呈しており、今年はどうかといえば悪くなると予想しています。

来年2020年はまちまちというのか、一斉によくなるともいい切れず、18年までのようにアメリカの経済が好調な時代はみんな幸せだったという状況には必ずしもならないと読み取れます。各国で事情は異なりますが、どこかの国で景気後退期に入るかもしれないし、今はその分水嶺にあるという状況ですね。

先週末に発表されたヨーロッパの経済指標はまさに投資家を弱気にさせました。日本時間の金曜夜に株が売られ、アメリカでは株への投資資金がより安全な国債に向かいました。国債が買われるというのは長期金利が下がるというしくみ。それで長期金利がグッと下がってしまい、これによって投資家はアメリカの景気がこの先、後退するのではないかと危惧した。人はピクピクしたり損失を出しそうな局面になると冷静で合理的な判断を失うといいます。たとえば競馬で負け続けてもな

んとか挽回しようと大博打を打って失敗してしまう。同様に、少なくとも株式市場では株が売られてしましました。その背景にあるのは不安心理です。

株式を市場で売り買ひするのが合理的か否かは投資家個人で判断するしかなく、私がどうこう言えるわけではありませんが、今はとにかくビクビクしている状況です。悪いことに、今はコンピュータで取引することがさかんです。コンピュータはあらかじめ設定しておいた値幅をもとに売り買ひを指示します。人間の場合は最後の競馬のレースを買うか買わないか多少躊躇すると思いますが、コンピュータはまったく躊躇がなく、売る時も買う時も一気呵成です。最近の値動きの幅が大きいのはそのためで、昔は一日で500円下がった上がったで大相場だと言われましたが、今は割と頻繁に現れ、フラッシュクラッシュというものが相場用語になっているくらいです。

東京では週明けの月曜にストンと下がり、翌日は反転値上がりしました。今日は最終的に50円弱の値下がりで終わっています。合理的な判断ができたとしてもこういう乱高下した相場では、これに乗り遅れた人は損失を出してしまうというのが市場の有様です。

合理的という言葉は新聞記者として大切にしているものです。取材していく上でこの政府の判断は合理的か否か、経済合理性だけでこの事象を判断していいのかどうか、つねに考えます。ぜひ頭の片隅に置いてください。

リスクが顕在化

6年前、安倍政権が誕生し、経済政策アベノミクスは株価や資産価格を上げることに成功しました。その結果、富裕層や高所得者の消費力は間違いなく上がりました。前回の消費税増税のときは景気が落ち込み、株価もジグザグしたのですが、株価のピークは昨年10月の初め、バブル期以来の24,448円の高値を付けました。18年は車といえば3ナンバー やスポーツカータイプ、ドイツ車をはじめとする輸入車等が売れました。庶民に景

気の回復の実感がないと言われる中、資産効果の恩恵を受けている人がいたのも事実です。

直近の半年間で株価は下落傾向をたどりました。株売りの理由は日本企業の業績、ブレグジッド(=英国のEU離脱)の問題をはじめ、一番のリスクは米中の摩擦です。そのあたりによる中国経済の減速と世界経済のブレーキ。いずれの要因もマイナスに左右するだろうとみられ、安心して株が買えないという状況を作り出しました。

その発端は昨年秋の少し前で、予想以上に米中摩擦の影響が大きいのではと言われ始めたこと。中国経済のみならずトランプさんもブーメランのように痛手を受けるだろうと。アメリカは中国から大量にモノを買っており、それが貿易赤字となって中国への攻撃となったわけですがこれらの貿易面やIT権利争い、米中閣僚会議で合意する動きもなかなか見えず、さらには安全保障の問題もからんでくる。中国から製品を輸入しているアメリカとしては、アメリカ製品の価格もいずれ上がるだろうと言われてきました。これが世界一の消費市場たるアメリカの景気を冷えさせる。去年の秋口に起こったのはそれまで漠然と言われてきた将来のリスクが、少しずつ数字になって現れて来たことでした。

日本の場合、深刻なのは企業業績です。日本の企業業績は昨年極めて順調に推移し、9月の中間期がとくに良く、株価最高値に結びつき、しばらくは好調を維持するだろうと言われていました。しかし年末に向けて5000円近く値を下げた。理由は今説明したとおりの流れで、日本企業は輸出メーカーを中心に打撃を受け、企業業績が悪化するのではという懸念が広がりました。

昨年4～12月期の決算は上場企業全体で減益となり、株価は下落傾向をたどったのですが、今現在は狭い値幅の中で推移しています。この先の景気の動向、各国間の通商交渉がどうなるか不確実性が高まっており、かなりの様子見が続くだろうといわれています。

昨年末の一方的な悲観論、投げ売り的な相場の様相からやや持ち直しては来ていると思いますが、OECDはじめ様々な調査機関やシンクタンクが予

測を出すたびに下方修正という言葉を使って数字を低い方に出しており、総じて世界経済の雲行きは危うくなっていると言わざるを得ません。日々の動きは日本国内特有の事情で売り買いされることはあまりなく、アメリカが下がれば日本も下がるという写し鏡「ミラー相場」のような状況が続いています。

蛇足ながら、先々のことはわかりませんが株式市場は3月期の企業決算発表期を迎え、これに注目しています。減益だった4～12月期に今年1～3月期を追加したトータル一年間の業績を判断するわけです。何よりの注目点は2020年3月期にどのような業績予測を発表するか。日本では5月10連休は取引が出来ませんし、この間アメリカの株価が下がったらどうしようという心配が頭をよぎるヌルヌルとした相場環境が続くことになります。

こういう状況が続くと、逆資産効果といいますか、株価の調子が悪くなると富裕層の人々の消費も冷え、悪循環に変わることを心配します。正月の会報誌で「緩やかな景気回復が続くが、昨年以上に下振れのリスクがある」と申しましたが、まさに市場関係者はそのリスクを強く意識しています。

政権に忖度する「景気判断」

少し話を変えます。最近「戦後最長の景気はいつまで続くか」「日本経済はどうなるか」という2つの質問をよく受けるのですが、2つの質問はつまるところ「景気判断」「景気動向」の違いに置き換えることができます。

同じような質問ですが微妙に違います。景気判断とは政府の組織で学者やアナリストが分析して決めるもので、たとえば1月に最長景気になったのかどうかは来年以降に内閣府内の組織で判断しますが、それでは遅すぎるということで、毎月2回、安倍首相以下、月例経済報告の関係閣僚会議というのを開いています。ここで政府の景気に関する公式見解が発表され、直近の1月の月例報告では「戦後最長の景気拡大になったはずだ」と発

表し、これが正式かどうかは1年後に判断されます。

2か月後の3月には「景気はこのところ輸出や生産の一部に弱さも見られるが、緩やかに回復している」と発表しました。「弱さがみられる」という引き下げ判断ですが、「回復」という2文字を落としていることから、景気拡大の基調は続くというのが公式見解です。確かに現時点では輸出品の生産の状況は厳しいものの国内の個人消費や設備投資はしっかりしている。その判断も妥当だと思われます。

この政府の景気判断とは、相当、政権に忖度する傾向にあります。その点は注意していただきたい。たとえばこれから行われる統一地方選挙や参院選に向け、楽観的な景気判断を続け、私たちが取材する経済官僚や政治家の多くは「総合的に判断する」という言い方をしてくるでしょう。この言い方は、ややもすると「合理的な判断ではない」と言っているのと同じです。景気判断を読む時は、政権の戦略が反映されていると理解したほうがいい。つまりバイアスがかかっているのです。

誤解を恐れずに言えば、私が正月の会報誌に書かせていただいた「緩やかな回復が続くが昨年以上に下振れリスクがある」という表現は、書き替えれば「年後半に景気が悪化するリスクがある」となる。「緩やかな回復」というのが政府の景気判断の公式キーワードであり、多少景気が下に傾いたからといって簡単に動かせるだろうか。回復を足踏みしているというような表現に変えるだろうかと考え、新年の寄稿ということもあり、「回復」を前提にした書き方になりました。新聞記者がそれでいいのかとお叱りを受けそうですが、政府の判断というのはそういうところに少なからず影響しているとご承知おきください。

実態経済を反映する「景気動向」

一方で景気動向の判断というのは、景気の先行きがどうなるか実態経済をつぶさに観察する作業になります。政権に忖度する必要もない。渦中の米中摩擦や両国間の協議等に、今の経営者たちは

極めて敏感に反応しています。世界1位と2位の経済大国の争いですからね。経済規模をGDPで表すと日本は530兆円ぐらいですが、米中あわせるとその6倍強。日本国内でGDPを1%上げるのにヒリヒリしているのに、その6倍規模の経済大国同士ががっぷり四つでぶつかり合っているのですから、何が起きるのか計り知れません。この争いに日本やヨーロッパが巻き込まれつつあるというのが実情です。

いくつか具体的な不安材料を挙げてみましょう。中国経済の減速を受けて世界の半導体市況が悪化し、ハイテク機器の売れ行きも少し悪くなっています。年末年始にかけ、アメリカAPPLE社のiPhoneが売れなくなったというのも話題になりました。「今は底」という見方は楽観的ではないかと経済記者は見ていました。中国市場でのスマホの売れ行きや北米市場の車の売れ行きも力強くない。その結果、日本のメーカーの在庫調整が消費増税以降も続くのではと見て取材を進めています。

経営者の間でふくらむ不安心理は、はからずも春闘の賃上げ幅が縮小するという影響につながっています。もちろん賃金が下がったわけではなく、上げ幅が昨年よりは少なかっただけで、実際の生活者の懐具合は少しずつ回復してくるでしょう。ただし消費増税をうまく乗り越えられるかは別です。とくにこの春は食品の値上げが相次ぎました。麺類、調味料、牛乳、食用油、アイスクリーム、清涼飲料、人気の鯖缶、カップ麺などあらゆる分野に及んでいます。流通の過程で店頭価格にどう反映されるかどうかわかりませんが、仮に値上げに働きば、消費行動にはマイナスに働くでしょう。

そこで演題にある消費増税ですが、ポイントは足元の輸出や輸出企業の生産の落ち込み、今は堅調と言われる個人消費、老朽化・AI・省力化・人手不足をカバーする設備投資等。中でもGDPの6割弱を占める個人消費がカギを握ります。個人消費が増えないもしくは減ってしまうと景気は一気に疲弊します。正月の経済3団体（経団連、経済同友会、日本商工会議所）合同の新年会では安倍首相が「お釣りがくるぐらいの経済対策をとる」と挨拶しました。どういうことかというと公共事

業を19年度予算と18年度補正予算を合わせて3.3兆円、国費として財政出動するという。国費ですので自治体や民間のお金も足し算するような事業規模になると内需の下支えにもつながると国は目論んでいます。確かにこれは今までの消費増税時とは異なり、財務省の官僚がははからずも「消費増税分はすべて社会保障、税の一体改革、借金返済に使うんだ」と言っています。消費増税の負担以上の返し（幼児教育無償化、社会保障の充実等）とお釣りとしての財政出動、というわけですね。

公共事業はある程度計算ができるが、個人消費対策のポイント還元やキャッシュレス等についてはとても複雑で、利用されなければ10%の負担増が厳しく感じ、消費が落ち込むというのが私の不安。経済部の記者に消費増税の個人向け対策についてわかりやすい記事を書けと言ってもなかなか書けてないのが実情です。

人は合理的には動かない

論点を整理します。外需（輸出）は不透明でわからないところが多いものの、自分たちで出来る国内の景気はしっかりしたものにする。そのための消費増税対策がどういう効果を生むかというと、公共事業中心の対策では個人の家計が直接恩恵を受けることは少ないという指摘がある一方、社会全体が支えられ地域が維持されるのであればマクロ経済的に見れば景気が下支えされることになるから回復という基調も維持されるという論点に2分されます。

ポイント還元等については高齢者にわかりにくく、うまくいかないのではという見方がありますが、いったん始まれば、ふるさと納税のようにうまくブームを喚起し、盛り上がるのではないかという声もある。PayPayのようにキャッシュバックキャンペーンを仕掛けたら一気にはけたというような流れが、各地で若い人を中心に広がり、消費を支えてくれるという期待感もあります。

耐久消費財では景気下降リスクを反映し、新車販売は19年度は下がるという予測ですが、増税

前の駆け込み需要は期待できます。なんといっても自動車税制改正の効果がどう出るか注視したいですね。ディーラーの話では車種によっては増税後のほうが得だというものもあり、今回の増税は自動車にしても前回と様相が異なるようです。

家電はリーマン・ショック後の景気対策効果で購入したものが10年を経て買い替え時期に来ており、かなり期待できるのではないかと言われています。景気は「気」からと安倍首相自身も言っています。先ほどの景気判断と同様、メッセージとしては大事ですね。日銀の黒田総裁はバズーカと称される大規模な金融緩和を行い、人々の期待に働きかけると言った。総裁も財務官僚出身ですから「正しい政策を打ったのだから個人も企業も経済合理的な行動をとるはず」と考え、結果として景気は良くなるというシナリオを想定したと思います。

しかしながら、言い方は悪いですが総裁の通りにはなっていません。これは身近な景気や経済の状況、政治の状況を読み取って決断する上でも大事な点だと思います。新聞記者も同じです。ちょっと前に〈白衣のお医者さんの85%が健康のためにこのヨーグルトを食べてみたいと言いました〉というテレビCMがありました。そういう問い合わせをすれば健康志向の消費者の心を搔き立てられるという疑惑だったのでしょうが、考えてみると85%とは1000人中150人の反対意見があったとも取れる。そうなると人々の行動は必ず変わります。経済政策で成長戦略や消費税対策を立て、この政策が一番合理的だと言っても必ずしもそうはない。個人消費がそうです。合理性だけではミクロの集合体である個人消費を動かすことはできないのです。

そう考えると身も蓋もない話ですが、経済と株価の見通しはやはりわからないというのが答えになってしまいます。個人個人の行動の平均値をどうとるか、トランプ大統領がツイートでどんな極端な政策を発表するのか、それがいつどのタイミングで出てくるか、それが日本にどういう影響があるかはわからない。だからこそ我々は必死に取材するのです。政府の統計や民間団体の指標だけでなく、皆さま方の皮膚感覚や経験に裏打ちされ

た話を聞くことが、取材ではとても大事になってくるのです。

観光需要を取り込んだ方が強くなる

正月の会報誌にインバウンドの需要は確実に増えると書かせていただきました。旅ブームですね。遠くの旅から身近なバス旅行まで、景気に関係なく増えています。東京では伊豆半島ジオパークのCMがさかんに流れています。これは静岡県にとっての大きなチャンスで、ぜひ活かしてほしいと願っています。

ところで「さくらちゃん」「れいちゃん」「みこちゃん」「みおちゃん」ってわかる方いらっしゃいますか？これ、女性の名前ではなく伊東にいるイルカの名前なんです。

わが家では毎年10月の3連休を利用して10年以上伊東市で遊んでいます。実は生まれながらに難病を患った長男に、テレビで見たイルカのセラピー効果をなんとなく期待し、イルカの水槽で泳がせているだけなのですが、毎年長男は楽しく過ごしている。効果があるのかないのかわかりませんが子どもが楽しむ姿を見るのは嬉しいもので、気が付けば10年以上続いています。決して合理的な行動ではないし、他にもっと効果的な治療にお金をかけるべきかもしれません。子どもの楽しい姿を見るためだけに10月の3連休、必ず伊東に来る私の行動も、考えてみればとても複雑で合理的ではありません。東京で官僚を取材したり著名なエコノミストを取材するもの大事ですが、しょせんは誰かが作った数字の話でしかないのです。

人の行動は観光需要を確実に取り込めると思います。観光需要を取り始めた地方は景気動向に関係なく強くなります。これからの方は、素通りするところと来てくれるところに分かれます。この地域の発展を心から期待しています。

〈講師プロフィール〉

小島 洋(こじま・ひろし) 氏

時事通信社経済部長

1967年横浜市生まれ。90年時事通信社入社後、松山支局、経済部を経て、2012年経済企画部次長、15年経済部副部長、17年より現職

『第4回富士山地区分科会』

2019年3月6日 会場／御殿場高原ホテル

『五輪後のレガシーと 地域振興』



サンフロント21懇話会は2019年3月6日に第4回富士山地区分科会を開催。2020年7月の東京オリンピック・パラリンピック自転車競技会場に決定した富士山麓や伊豆市における関連産業の振興や地域活性化について、多面的な討論を行った。

基調講演ではオリンピックおよびパラリンピックのワールドワイドパートナーであるブリヂストンサイクル(株)の望月基社長(静岡市出身)が、自転車競技の魅力と同社の地域貢献について語り、パネルディスカッションでは4名のパネリストがオリンピックのレガシーを地域振興に活かす道筋について熱い議論を交わした。

主催者代表挨拶



静岡新聞社常務取締役

谷川 治

サンフロント21懇話会富士山地区分科会にご来場いただき、ありがとうございます。本日の富士山分科会は開催まで500日に迫った2020東京オリンピック・パラリンピックについて取り上げます。自転車競技が県東部で展開され、世界から大勢の方が当地を訪れるということで地域振興の絶好の機会となります。またオリンピックの後のレガシーについても考えていきたいと思っています。

今回はブリヂストンサイクル(株)の望月基社長を基調講演の講師にお迎えしました。ブリヂストン社は2020東京オリンピック・パラリンピックのワールドワイドパートナーとして、世紀の大イベントを支援しています。また三島市に同社自転車競技部TEAM BRIDGESTONE Cyclingが移転し、活動しています。本日は「CHASE YOUR DREAM～地域社会への貢献を通じて次世代への夢をつなぐ」というタイトルでご講演をいただきます。望月社長は静岡市清水区のご出身であります。

引き続いてのパネルディスカッションでは「五輪後のレガシーと地域振興」をテーマに、各分野のパネリスト皆さんにさまざまなご提言をいただきたいと思います。ぜひ本日の分科会をきっかけとして、更なる地域の盛り上げにつなげていければと期待しております。

サンフロント21懇話会は今年25年目を迎えました。四半世紀にわたってさまざまな支援や提言を行ってまいりましたが、今後も懇話会としていろいろな活動に取り組んでまいりたいと思っております。こうした活動を継続できるのは会員の皆さまのご協力とご支援のおかげだと思っております。この場をお借りして改めて感謝を申し上げるとともに、今後もご協力ご支援を賜りますようお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

開催地代表挨拶

サンフロント21懇話会の第4回富士山地区分科会を御殿場市で開催するにあたり、多数の方にご参加いただき、誠にありがとうございます。本日は盛りだくさんの素晴らしい分科会になると思います。25年目を迎えるサンフロント21懇話会のエネルギーッシュな活動に参加できることを大変嬉しく思っております。

御殿場市の職員も東京2020に向けて一生懸命頑張っております。本日は議会の一般質問の初日ということで市長がこちらへ伺うことができず、大変心苦しく思っております。市長よりメッセージを預かってまいりましたので代読させていただきます。

本日はサンフロント21懇話会富士山地区分科会を開催する御殿場市へお越しいただき、誠にありがとうございます。本年度、御殿場市では東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車ロードレースのコースとなることが決定し、イタリア代表チームの事前合宿地にも決定しました。こんなに嬉しいことはありません。御殿場市としてもこれらを追い風としてサイクルスポーツやゴルフレジャーをはじめ、豊かな自然を生かしたアウトドアツーリズムのイベント実施・魅力発信に力を入れております。市民の皆さまへの機運醸成や国内外から訪れる多くの皆さまを最大限のおもてなしで受け入れ、この祭典を機に後世に残すべきレガシーを残すべく官民共同で万全の準備をしているところであります。

本日はよろしくお願ひいたします。



御殿場市副市長

瀧口 達也

基調講演

『CHASE YOUR DREAM～地域社会への貢献を通じて次世代への夢をつなぐ』

ブリヂストンサイクル(株)代表取締役社長

望月 基氏



私は静岡県の清水に生まれて13年間過ごし、本日は46年ぶりに地元の皆さまとご一緒させていただけたことになりました。深いご縁を感じ、感謝申し上げます。

ブリヂストンは自動車タイヤにおいてはそれなりに知られていると思いますが、他に産業用ホース、コンベアベルト、防振ゴム、免震ゴム、自転車、スポーツ等の多様な商品の製造販売を通して、よりよい社会の発展に寄与する活動を行っております。本日は当社とオリンピックの関係性をはじめ、ここ静岡県が主な開催地となる東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車競技に触れ、私どもの思いについてお話をさせていただきます。

ブリヂストングループの多角化事業

当社グループは1931年に福岡県久留米で創業し、本年で創立88年を迎えます。本社は現在、東京都中央区京橋です。創業時は社員144名という小規模でスタートし、現在、グループ全社で14万人を少し超える程度まで拡大しました。連結売上高は3兆6千5百億、純利益は2千9百億円ということで、改めまして日頃のご愛顧に深く感謝申し上げます。

事業は主力のタイヤ事業領域では乗用車用、トラック・バス用、建設・鉱山の車輌として使われる大型タイヤ、航空機用のタイヤ等を幅広く製造販売しています。

多角化領域としては大地震の際、皆さまの大切な建物・財産・命を守る免震ゴムや防振ゴム、さらにはコンベアベルト、自転車、ゴルフやテニス、スイミング等のスポーツ用品も併せて製造販売しています。各事業はかつて縦割りで独立営業していましたが、お客様の同じお困りごとに対し、窓

口の異なる者がいちいち対応するのではお客様本位ではありませんので、それぞれのグループが垣根を超えて一体となって営業するよう変わりつつあります。たとえばオーストラリアには非常に大きな鉱山がありますが、鉄鉱石を港まで運搬するのに長距離の搬送には大型ダンプ、コンベアベルト、あるいは鉄道といろいろなオプションがあります。その際、大型特殊タイヤのグループとコンベアベルトのグループがバラバラに営業するのではなく、一緒になってお客様にとっての最適化をご提案しています。

ブリヂストンサイクルは1949年に本体から分離独立しました。70年にわたり、自転車の製造販売を通じて社会の発展に多少なりともお役に立ちたいと日々努めています。

社是は〈最高の品質で社会に貢献〉

ブリヂストンは創業者の石橋正二郎が1907年3月、17歳で兄と共に家業の仕立物屋を継承し、足袋の専業からスタートしました。その後、サイズ別にバラバラだった料金を均一化させるなどユニークな商法で地下足袋事業を成功させた後、ゴム靴事業へ進出し、着実に事業の発展拡大を進めてまいりました。1931年、将来の自動車社会の到来を見越し、なんとしてでも国産タイヤを供給したいという使命感からタイヤ事業に踏み込んだわけです。

当社の社是は〈最高の品質で社会に貢献〉。この実現のため、目指すべき目標や方向性、実行すべき行動を示すものとして「品質宣言」「環境宣言」「安全宣言」の3宣言を定め、企業理念を含めた4つで企業理念体系を確立しております。

まず「安全宣言」。安全はすべてのものに優先

するということは皆さんも日々心掛けいらっしゃると思いますが、安全とは絶対基盤であり絶対価値であります。安全な職場で安心して働く環境を作るというのは企業活動の大前提であります。

「品質宣言」はお客様の価値を創造する顧客価値の創造という側面から掲げています。我々目指すべき方向とブレない軸を示すものです。

「環境宣言」は自然と共生する、資源を大切に使う、CO₂を減らすという社会価値の創造、あるいは持続可能な社会の実現に向けた活動の方向性を明確にしたものです。

このような企業理念体系がなければ、グループ全社14万人が同じような価値観や行動をとることはできません。これを日々意識しながら14万人の仲間たちがひとつになって日々業務に取り組んでおります。

さらにOur Way to Serve という C S R 体系も定めています。従業員一人一人の行動指針として、「モビリティ」「一人一人の生活」「よりよい環境」という3つを重点領域に定めてあります。他にも責任ある企業としてガバナンス、コンプライアンス、行動規範の強化として基盤となる領域を6つ取り決めています。ブリヂストングループとしての強みを活かしながら技術のみならずデザイン、ビジネスモデル等さまざまな分野におけるイノベーションを通じ、社会課題に向けてお役に立ちたいと考えています。

創業者は常々「世の人々の楽しみと幸福のために」と口ずさみ、大学の用地や美術館を地域コミュニティの方々に寄贈し、当時は川で泳いでいた子どもたちのために学校に水泳用プールを寄贈する活動にも積極的でした。このような創業者の思いは企業のDNAとして私どもにも引き継がれており、2003年から毎年環境をテーマにしたブリヂストンこどもエコ絵画コンクールを開催しています。

2024年パリ大会まで オリンピックパートナー契約

2014年6月、国際オリンピック委員会との間でワールドワイド・オリンピックパートナー契約を、2018年10月には国際パラリンピック委員会との間でパラリンピックパートナー契約を締結しました。スポンサーではなくパートナーです。

オリンピック・パラリンピックの精神は当社の考え方や目指すべき方向性と極めて親和性が高く、

地域社会への貢献、社会的責任の全う、多様性の尊重というものを共に実現していくパートナーとしてお役立ちしていきたいと考えています。契約は2024年のパリ大会まで継続します。東京2020以降もオリンピック・パラリンピックを通じて、よりよい社会の実現に向け、最大限の尽力をしてまいりたいと考えています。

当社グループはオリンピックのみならず、パラリンピックのワールドワイドパートナーに就任しました。当社が掲げる〈最高の品質で社会に貢献〉という使命と、オリンピックが掲げる〈スポーツを通じてよりよい世界の構築に貢献する〉、パラリンピックの〈パラスポーツを通じてよりインクルーシブな社会を創造する〉というゴールは、社会への貢献や多様性への尊重に対する熱い思いが共有されています。こういった考え方に基づいて、世界最高峰のスポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピックを通じ、さまざまな困難を乗り越えながら夢に向かって挑戦し続けるすべての人々の旅や挑戦をCHASE YOUR DREAMというテーマに込め、活動を進めております。

東京2020の自転車競技種目

自転車競技の主な種目がここ静岡県で開催されることが決まり、本当に嬉しく思います。この機会をどのように活かし、将来のレガシーを残していくか、皆さんと一緒に知恵を絞りながら大きな夢を具体的な目標に昇華させながら進めてまいりたいと思っています。

自転車競技は多くの距離を一般道で争うロードレース、すり鉢状の傾斜が着いた専用競技場で行われるトラックレース、起伏に富んだコースで実施されるマウンテンバイク、BMXの4種類に分けられます。ヨーロッパではロードレースの人気が特に高く、毎年フランスで開催されるツールドフランスはオリンピック、サッカーW杯と並んで世界3大スポーツに数えられ、一つのスポーツイベントとしては最大級の1500万人が観戦に訪れます。今回のオリンピックでも非常に多くの国からの観戦者が見込まれます。

男子ロードレースは東京府中をスタートし、神奈川県、山梨県を通過し、標高1451mの富士山麓山岳ポイントを通過し、富士スピードウェイを含む周回コースを2周します。いったんコースを出て三国峠を登り、山中湖の東を廻って籠坂峠を下り、富士スピードウェイに戻ってゴールという

非常にエキサイティングなコース設定です。ちなみに女子のロードレースは富士山麓と三国峠を除いたコースとなっています。特徴としては、男子は標高差4860mで距離にして234km。女子は2692mで距離137km。とくに男子は標高1000mを超える峠を5つも超える近年まれにみるハードなセッティングになっています。

当初は東京の皇居前をスタートするコースが設定されたとかがっていますが、その後、日本の象徴である富士山を外せないという思いから、富士山周辺を走る日本らしいコースで世界一を決めようということになったそうです。確かに富士山の地形を利用した起伏に富んだ激しいコースは非常に見ごたえのあるレースが期待できます。

その他、県内で開催される自転車競技としては、専用の競技場で開催されるトラックレース、起伏に富んだマウンテンバイクがあります。トラックレースは個人の着順を競い合うスプリントと、4人一組の2チームで競うチームパシュート等6種目があります。

一方、マウンテンバイクは舗装されていない山道を走る個人種目で、様々な表情があるコースを体力や技術でいかに攻略していくかが見どころになります。

トラックレースの会場は静岡県伊豆市の日本サイクルスポーツセンター内にある伊豆ベロドromeです。ベロドromeとはフランス語で自転車を意味する「ベロ」と、ラテン語で競技場を意味する「ドrome」を組み合わせた名称です。伊豆ベロドromeは日本で唯一、自転車トラック競技としては世界水準仕様である室内での板場に250mトラックを装備し、国際大会開催基準を満たした競技施設です。ギアもブレーキも持たないトラック専用の自転車で最大斜度45度のコーナーを最高時速80kmを超えるような猛スピードで駆け抜けていく、そのレースを選手の間近で観戦できるというだけでエキサイトするでしょう。またマウンテンバイクもサイクルスポーツセンター内のマウンテンバイク専用コースで開催されます。

三島に拠点を移した チームブリヂストンサイクル

オリンピックの出場を目指す私たちの仲間『チームブリヂストンスポーツ』は1964年、当社の自転車競技部として活動を始めました。同時に競技用自転車の製造開発もスタートし、自転車メー

カーとして50年以上競技に関わり続け、実際にオリンピックに出場した選手も在籍しています。いつも一緒に仕事をする仲間の中にオリンピアンがいるということは非常に誇らしく思います。

チームブリヂストンサイクルは2017年に活動の拠点をフランスから三島市に移しました。

現在は3種目13名の選手が三島に在籍し、オリンピックを目指して厳しい練習を重ねています。当地ではE-Spo様、伊豆箱根鉄道様をはじめ、非常に多くの方々のご協力のもと、選手にとってより良い環境を整備していただいており、この場をお借りして御礼申し上げます。

チームのこの1年間の主な戦績をご紹介します。太田りゆはトラックワールドカップ香港大会の女子ケイリンで銀メダルを獲得しました。窪木一茂は2018年日本プロツアーワン年間個人総合優勝を果たし、全日本選手権でも6冠を獲得しました。また4人1組のチームパシュートにおきましても先般行われたアジア選手権で優勝をおさめるなど好成績を残しています。

当社は自転車メーカーとして機材開発にも力を入れており、チームの所属選手への機材提供のみならず、オリンピック出場を目指して戦っている全日本の関係チームにも機材提供を行っています。世界最速の自転車を開発し、日本人選手が全力疾走をして東京オリンピックでメダルを獲得するのが当社の大きな夢であります。選手の努力はもちろん、選手に最高の機材を提供しようと日々努力を重ねる技術者たち、最高の環境を整えるべく尽力するスタッフたちの貢献がチームの勝利には欠かせません。私たちも全力で支えながら、挑戦することの素晴らしさ、ワクワク感、ドキドキ感、感動や勇気をお届け出来たらなと思っています。

チームは勝利に向かって挑戦するだけではありません。拠点を三島に移転したことで日々地域の皆さんとコミュニケーションを取させていただくことが非常に大事になっています。この地での自転車競技への周知に関する活動、自転車競技に親しみを持っていただくための活動として、キッズスクールの開催等を積極的に進めています。

2017年と2018年にはオリンピック3年前イベント、2年前イベントに協力させていただきました。オリンピック・パラリンピックの開催地は必然的に世界から注目を集めます。開催期間中は現地観戦だけでなく、テレビなどを通じて地域の魅力を世界に発信する好機でもあります。オリンピックの自転車競技会場となったことを核とし、さ

ざ波のように多方面へ活動の輪を広げ、大きなムーブメントしていくことが大切であろうと思います。

思い出すのは2002年サッカーW杯日韓大会で、カメリーン代表チームの合宿地となった大分県中津江村です。村民全員が大歓迎をし、心からチームをもてなし、精一杯の応援をしました。その結果、今でもカメリーンの方々とのご縁が親密に続いていると聞いています。静岡には魅力ある観光資源がたくさんあります。ぜひとも地域の未来に向けて皆さまと一緒に歩んでいきたいと考えています。

CHASE YOUR DREAMに向けて

オリンピック開催地の盛り上がりについて、2012年のロンドン大会の事例を見てみましょう。オリンピック・パラリンピックの経済的効果としては観光客の増加、国内消費や雇用の増加、インフラ整備の進展等ハードの面での貢献はイメージしやすいと思いますが、それ以外の関わる人々の感情をも変化させるソフトパワーがあることに気づかれます。

ロンドン大会終了後の調査では、自国開催について55.5%の人が誇りに思うと回答しています。さらに未来への希望を持ったという人が36.7%、3人に1人が未来への活力をもらったと回答したのです。こういう数字を見ると、ただオリンピックを迎えるだけでなく、開催期間中に何をすべきかをしっかり考え、それに向けた準備をし、機運を醸成していく。そして大会のレガシーにしっかりとつなげていくことが大事であることがよくわかります。

事実、ロンドンオリンピックでは誘致の段階から開催後のレガシー創出を考え、企業が地域へのムーブメント波及を狙って草の根活動をサポートしたり、選手が地域の学校を訪問して子どもたちと触れ合ったりしながら、地域と企業が強く連携してきたと聞いています。その結果、ロンドン大会の最大のレガシーとは、国民が「自分たちでもやればできるんだ」と自信を持ったことだと言われています。有形無形さまざまなレガシーがある中、数多くのレガシーが確認される先進国でのオリンピックではロンドンの事例が成功例とされているわけです。

1964年の東京オリンピックでも同じことが起こりました。大会の前にオリンピック競技を強化

し、開催地以外の地域や子どもたちへの参加意識を高め、期間中は熱狂的な応援と心からのおもてなしで様々な国からのお客様を迎えるました。国立競技場、新幹線、首都高速道路等のインフラ面でのレガシー創出はもちろんですが、スポーツ少年団やスポーツクラブが各地で誕生し、子どもたちの運動能力の向上というソフト面でのレガシー効果が評価されました。日本国民の間にも自信や誇り、将来への希望というものがレガシーとして根付いたと考えられます。

私たちは東京2020を通じ、残すべき最大のレガシーとして、子どもたちの笑顔、子どもたちが次の夢に挑戦することという無形のものにあると考えています。

感動に触れることで自分が変わる、自分が変わることで社会全体が変わるのが我々一人一人のオリンピズムであると考えます。競技開催地の皆さまと一緒に、自転車が持つ移動手段だけではない魅力を通じて子どもたちの夢への挑戦を支えたい。そして観戦を通じて自転車競技に関心を持ったお子さんたちがいつかチームブリヂストンサイクルに入り、静岡県出身選手として次のオリンピックに出場し、次世代へつなぐといった夢を皆さんと一緒に見続けられたらと考えています。

56年ぶりの東京開催、今後あるかどうかわからない地元でのオリンピック開催を通じ、一生の思い出と共に地元を誇りに思い、子どもたちの夢への挑戦を支え、夢として残していくことを皆さまと一緒に取り組むことが、私たちの掲げるCHASE YOUR DREAMであります。アイディア段階ではありますが、東京2020に向けて大規模な応援団を結成し、オリパラ開催期間中に選手のみならず応援する子どもたちも主役になるよう、世界の100万人の応援メッセージを地域の1万人の子どもたちが選手に届ける。子どもたちが自転車競技を通じて世界と地域の架け橋となる。そういう環境を私たちがサポートするというアイディアも持っています。

それぞれの企業や団体の強みも活かし、開催まで残り1年、しっかり準備をし、子どもたちにとって一生の思い出に残るような活動にしていきたいと思います。

〈講師プロフィール〉

望月 基 (もちづき・もとい) 氏

ブリヂストンサイクル(株)代表取締役

1960年静岡市清水区出身。慶應義塾大学卒業後、82年ブリヂストン入社。2012年執行役員、14年常務執行役員、18年10月より現職。19年1月よりブリヂストンスポーツ(株)代表取締役社長を兼務。



「五輪後のレガシーと地域振興」



◆パネリスト

山本 東 氏(静岡県文化・観光部スポーツ局長)
木部 一 氏(静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会(E-Spo)サイクルスポーツ部会長)
芹澤 章裕 氏(伊豆箱根鉄道(株)総務部総務課長)
飯島 誠 氏(ブリヂストンサイクル(株)元自転車選手)

◆コーディネーター

大石 人土 氏(一般財団法人静岡経済研究所常務理事/TESS研究員)

開催500日前を切って

◆大石 ここからはパネリストの方々にそれぞれのお立場からオリンピック・パラリンピックへの思い、開催後のレガシーをどのように残していくのかをお話しいただこうと思いま



大石 人土 氏

す。今日の議

論は3つあります。一つは静岡県東部地区で開催される意義、2つ目は自転車競技そのものの魅力、3つ目は本題となるレガシーについて。まずお一人ずつ自己紹介とオリンピックにかける思いをお話しください。

◆山本 静岡県で開催された国際的なスポーツイ

ベントといえば、2002年サッカーW杯、そして今年の秋にはラグビーW杯が袋井のエコバで開催されます。大会は9月から10月にかけて開催され、終盤にはイギリス、オーストラリア、ニュージーランドといった強豪国が首都圏での決勝トーナメントに残ると考えられます。つまりこの時期に国内外のラグビーファンが首都圏に集まりますので、スポーツ好きに向けたアクティビティが充実している県東部や伊豆に呼び込める可能性は大いにあります。

世界各国から集まる選手や関係者やファンの人々に、ここが自転車の中心地なんだと思っていただけるよう、何ができるのか、どのようにおもてなしすべきか、そしてサイクルスポーツのレガシーをどうするか、県としても関係自治体と今からしっかり検討していきたいと思っています。

◆木部 E-Spoは東部20市町と県、民間団体を合わせて101の団体がスポーツを産業として振興させるため官民力を合わせて取り組んでいます。3年前には県からのご依頼でオリンピック・パラリンピックのフラッグを20市町に届ける事業を

行いました。以来、競技団体の受け入れ等をはじめ、せっかくブリヂストンサイクルさんが三島に来てくださったので、地域からメダリストを輩出できるよう、またどのように10年20年先の地域にレガシーを残すか、日々汗をかいています。

◆芹澤 私はここ御殿場出身で、故郷がロードレースの舞台となり、また勤務先である鉄道沿線のペロドロームがオリンピック会場になるということで非常に縁を感じています。2018年には初めて自分で競技用の自転車を買いました。

◆飯島 私は前の東京五輪の自転車競技会場だった八王子市の出身です。14歳のときに競技用自転車に出会い、高校に入ってから本格的に始め、オリンピックという夢が目標に変わり、選手として3大会、指導者として1大会に参加することができました。今回はまた新たな立場で東京2020を迎えることができ、本当にワクワクしています。今まで経験してきたことがどのような形で貢献できるか楽しみにしています。

オリンピック自転車競技の面白さ

◆大石 実際に選手や監督としてオリンピックに参加されている飯島さん、自転車競技の面白さを教えていただけますか。

◆飯島 自転車競技にどれくらい歴史があって何

種目あるかご存知ですか？

実は、近代オリンピックの第1回アテネ大会から第32回大会にあたる東京2020まで、水泳、陸上、体操、フェンシング、そして自転車の5競技が一度も途切れることなく続いている。オリンピックの自転車競技は22種目あり、この数は水泳の49種目、陸上48種目に次いで多い。オリンピック全33競技の中で3番目の多さです。

今回静岡県では18種目開催されます。さらにパラリンピックはすべて静岡県での開催です。ですからオリンピック期間中は全世界の自転車競技が静岡県にぎゅっと凝縮されると言ってもよいでしょう。



飯島 誠氏

トラックレースが行われる伊豆市のペロドロームは、1周250mで特徴は木製であることです。日本には競輪場がたくさんありますが、国際競技の開催条件である〈室内・木製・1周250m〉を満たしているのはここだけです。木製というのはアスファルトやコンクリートに比べて走行抵抗が少ない。しかもペロドロームは走路の幅が広いので好タイムが期待されます。7~8月は非常に暑いので空気の密度が薄くなり、世界記録が数多く生まれるのではないかと思っています。また観客席と走路が非常に近い。選手が走ったときの風圧やウエアの洗剤の匂いまで届くような距離です。五感で感じることができるトラックレースは、自転車競技の中でも臨場感が一番ある競技だと思います。

ロード競技はなんといっても244kmという三島~東京往復よりも長い距離を、東京調布を11時に出発して小山町に18時前後に到着という、時間にして6~7時間、獲得標高4865mという史上最難関コースです。選手はハイスピードで一瞬で走り過ぎてしましますので、観戦するなら登りがポイントになりますね。

マウンテンバイクは日本サイクルスポーツセンターの特設会場で開かれます。今回は高温多湿の環境で厳しいレースが予想されます。速さやスピードよりも、スタミナやタフさが左右するハードな競技です。

BMXはレースとフリースタイルの2種目あります。レースは2008年北京五輪で正式種目になり、オリンピック種目になったことでレベルが非常に上がりました。出場できるのはわずか24名。決勝は8名で争い、インかアウトのコース取りが非常に重要で、コース次第で第一コーナーまでに順位が決まってしまう。どの選手にもチャンスがあると言ってもいいハラハラドキドキのレースです。

BMXのフリースタイルはご存じない方がほとんどでしょう。自転車競技は基本的にスピードや順位で争うのですが、これだけは採点競技で、コース上のトリック(障害物)をいかにクリアするかを採点で競い、速さ以外に〈魅せる〉面白さを感じてもらえると思います。自転車競技22種目、さまざまなドラマや感動が生まれると思いますので、楽しみにしていただきたいですね。

◆大石 選手たちは500日前の現時点でどんな準備をしているのですか。

◆飯島 3月3日までポーランドでトラック競技の世界選手権が行われました。オリンピックに出場するには2年かけてワールドカップを転戦し、

アジア選手権、世界選手権の合計ポイントで参加枠を得ます。今、選手たちはペロドロームのスタート地点に立つためのサバイバルレースを展開中ですね。

チームパシュートという種目は平昌オリンピックのスピードスケートでご存知だと思いますが、自転車競技のチームパシュート参加国は8カ国のみ。スタートラインに立つまでのハードルがものすごく高いんですね。選手たちはやっと折り返し地点にいるといったところです。

自転車だから見える地域の個性

◆木部 私は自転車には30年ぐらい親しんでいます。中学のときからロード用自転車を愛用していましたが、スポーツは長らくアメフトをやっており、大けがをしたのをきっかけに、



木部 一氏

自転車でリハビリを始めたのが今の自転車熱につながっています。

自転車はまず移動手段としての需要が大きいと思いますが、さらには旅、気分転換、仲間とのコミュニケーション手段、ファッショントレンドとしてのツールになり、メカがさほど複雑ではないので素人でもいじれるという魅力があります。その意味で多様性が非常に大きく、これがスポーツ振興や産業面にも対応できるものと考えています。

環境に優しいという利点は客観的な数字でも裏付けられています。国によって税制やインフラ事情が異なりますが、スウェーデンでは1km走ることに自動車は0.15ユーロ(19円)社会に負担を掛けているのに対し、自転車は逆に0.16ユーロ分、社会に貢献しています。バンクーバーでは車が0.56カナダドル(47円)社会に負担をかけ、自転車は0.15カナダドル貢献しています。

イギリスではロンドンオリンピックを軸に自転車通勤を奨励した企業に税制優遇措置を与えたところ、2003年からオリンピック開催の2012年までに自転車人口が200%増加し、今まで3人に

1人だったのが、3人に2人自転車に乗るようになりました。これはイギリスがオリンピックを挟んで国家的政策として取り組んだものです。

ニューヨークでは5月を自転車週間と位置づけ、周辺5州をまたぐ公道を、大手を振って自転車乗りが走れる約3万人参加のツアーイベントを開催しています。環境整備についてはコペンハーゲンが進んでおり、約500kmにわたる自転車通行帯を整備しています。最近ではサイクルスーパーハイウェイのプロジェクトが進んでおり、周辺自治体にも自転車通学通勤を奨励し、3割増加を目指しています。公共交通との連携、アクセスの良さ、信号待ちの減少、自転車追い越し可能な空間の整備等、完全に自転車のための街づくりを進めています。

◆大石 E-Spoでは自転車を活用したイベントを何か考えていますか。

◆木部 県東部の自転車爱好者をハブに自転車の安全な乗り方を普及させるサイクリストクラブを結成しました。横のつながりを強化し盛り上げていく運動ですね。それ以外に、旅行者に自転車を乗ってもらおうとレンタサイクルの整備、自転車ガイドの育成等も目指しています。サイクリストクラブは20団体延べ350人が所属しています。

◆芹澤 私は2018年に初めて自転車を買い、現在2台目です。始めた理由は4つあって、まずは健康のため。広報の仕事をしており、私自身がテレビや新聞の取材を受けることもある、もう少し身体を絞らなければと思いまして(苦笑)。2つ目は気分転換です。自転車に乗ってペダルを漕いでいると爽快な気分になります。3つ目はカメラが好きで風景や建物を撮るのに車では近づけないようなところに行けます。4つ目は、自転車は全身むき出しでの移動ですから、その土地の匂いや空気を感じることができるということですね。

◆大石 飯島さんは、ふだんはどんな自転車を。

◆飯島 通勤で2.2キロぐらいママチャリで走っています。芹澤さんのおっしゃる通り、町にはその町特有の匂いがあるんですよね。何でもかんでもスピードを重視する世の中、町ってこんな匂いがしたんだ、それが魅力なんだということを再発見できます。

◆山本 五輪後のレガシーにはいろいろな考え方があると思います。ロンドン五輪の自転車競技場は現在市民に開放されています。マウンテンバイクのコースは世界選手権等に活用されています。

では東京はどうするのか。スポーツ実施参加率

を上げるというのが根本的な目標だと思います。過去、オリンピックの自転車競技を開催した自治体はそんなに多くないのですが、世界選手権の会場となった地域はいろいろあります。だいぶ前になりますが宇都宮でロードレースの世界選手権が開催されました。森林公园を周回するようなコースでしたが、宇都宮市や栃木県はその後のレガシーとしてJAPAN CUPを毎年実施し、海外からも選手を招いています。さらに地域でブリヂストンサイクルさんのように地域密着型の自転車チームを発足させ、市民や行政との交流も活発で「宇都宮はギョーザではなく自転車です」と自慢する人もいるくらいです。

自転車が単に移動手段ではなく、環境に良く、災害時にも活用でき、健康づくりにもなるということで、日本でも自転車活用推進計画を作るよう各自治体に指示が来ています。静岡県でも自転車活用推進計画をつくり、2020年までに全庁官民挙げて取り組んでいます。

動き出した五輪後の地域振興

◆山本 自転車活用進計画をつくるとき、他県に

なくて静岡県にあるものは何だろうと考えました。自転車のメッカといえば四国のしまなみ海道、宇都宮、埼玉などが挙げられます

が、静岡県は

山本 東氏

オリンピックという他にはない大会開催が大きな強みにもなります。

県の計画では、まずは競技の振興。自転車競技の中心地としての成長とアスリートの育成を大きく掲げています。オリンピック競技会場は民間の持ち物ですから、上手に整備し連携します。五輪後にも継続的に利用できるようシステムを構築し、さらにトレーニングキャンプのベース地として推進する。競技の魅力を伝えるイベントの実施など競技以外の楽しみの演出も考えています。

競技振興がトップに位置するとしたら、その下には観光的な魅力。車では味わえないサイクリズムの推進ですね。伊豆半島、富士山はもち

ろん、浜名湖まで含めたモデルルートを提案し、さらには和歌山県のほうまで伸びる太平洋沿岸自転車道を含めて国内外からサイクリストがやってくるような仕掛けを考えます。

富士山周辺では中山湖から相模原まで2020年以降もレースやサイクルイベントをやりたいという要望があります。世界が静岡県に注目するのは2019年から2020年の初めぐらいで、2020年が終わると一気に冷めていくでしょうから、2019年中に2020年以降にこんなことをやるというメッセージを発信していきたいと考えています。

◆木部 サイクルスポーツ聖地創造会議の裾野拡大安全部会の部会長を仰せつかり、今年度は自転車の通勤通学における安全対策を議題にしています。こうすれば安全になると紙に書いて配っても効果はなく、一人一人が自覚を持って乗るということを草の根的に呼びかけていかなければなりません。

自転車が持つ多様な価値を多くの人が感じ、生活に取り入れていくためには、とにかく自転車に乗る機会を増やすことに尽きます。先行するイギリスの事例では、3つの自転車に関わる団体の連携が奏功しました。政府は政策によって推進し、競技団体も力を入れ、さらには地域クラブが草の根的な運動を振興し、その結果、自転車利用人口200%増加につながった。選手強化ではシドニーでは0だった五輪メダル獲得数がアテネで1、北京で5、ロンドンでは8という成果に結びつきました。ツールドフランス2012年では総合優勝という実績も加わりました。ようするにピラミッドの頂点としての強化のためにはソールを支える文化が必要だということです。

サイクリストクラブの立ち上げでブリヂストンサイクルさんにお願いしたのは選手との交流によって自転車文化を伝えていただくことでした。また地域とのつながりで言えば地元の食材をアスリートに提供するしくみづくり。三島市ではタニタと協力して健康管理の仕組みを推進し、ブリヂストンサイクルさんは明治さんとの連携をお持ちだということで、この4社で進めています。まずはチームブリヂストンサイクルの皆さんに定期的に召し上がっていただくしくみを作り、その先にはサッカーのアスルクラロ沼津、バレーボールの東レアローズとも連携し、地域の新鮮で美味しい食材をアスリートに提供していくらいいと考えています。

さらには海外競技団体の相談窓口を昨年11月



に開設しました。選手村は修善寺に開設されますが、海外の強豪チームは選手村に入らず、ロードレースの小山町近辺に宿舎を取りたい、トラックレースチームではベロドローム近辺に泊まりたいという要望があります。これをきっかけに当該地域との交流が持てれば、とも考えています。

◆芹澤 伊豆箱根鉄道のサイクルトレインについて



芹澤 章裕 氏

てお話しします。駿豆線は三島から修善寺まで19.8km、13駅。年間利用客983万人の6割は通勤通学利用者です。明治31年に開通し、昨年120

周年を迎きました。

このような中、サイクリストから自転車を電車に乗せられないかという要望がありました。地元の通勤通学ラッシュ時にどうするか検討し、時間帯を分け、朝晩は通勤通学、日中9時から15時までサイクリストに利用していただこうと、2016年から17年にかけて実証実験を行いました。3両のうち最前と最後尾の車両に3台ずつ、持ち込み料なし運賃のみで乗せられるようにしたところ、トラブルはまったくなく、アンケートの結果も良好だったため、休日に利用時間を伸ばし、17年4月1日から本格運用しました。毎週土日と休日は朝7時から18時までサイクリストに利用してもらい、今のところトラブルはゼロです。

駿豆線は狩野川に沿って走っています。狩野川沿いはフラットで自転車で走りやすいので、往復どちらでも自転車と電車の併用利用ができると思います。

まずは知って関心を持つ

◆大石 レガシーを実現するためのハードルはまだたくさんあると思います。何が求められると思いますか。

◆飯島 レガシーを残すことに成功したといわれるシドニー、ロンドンでは、町の人が自転車競技のことをよく知っていました。オリンピック以外、ワールドカップや世界選手権で訪れたときも、一

般の人から「がんばってね」と気さくに声をかけられ、テンションが上がったことを覚えています。当地ではオリンピックのことは知っていても自転車競技のことを理解していない人がまだまだ多いと思います。オリンピックが始まってしまったあっという間に終わり、うまくいかなかったら何も残らない可能性もある。どういう伝え方をしたら、多くの人に知ってもらい、興味を持ってオリンピックを迎えられるのか、さまざまな立場でしっかり考え、伝えて行くことが重要だと思います。

静岡県東部地域は自然が豊かです。富士山、駿河湾、伊豆半島それぞれ自然に満ち溢れ、最大の武器は首都圏から近いということ。オリンピックを機に外国人が多く訪れる千載一遇の機会です。レガシーとして有形無形なものが必ず残ると思いますので、残り500日をかけ、全員が当事者となって動いていくことが大事だと思います。

◆木部 文化を伝える難しさは自転車に限らずいろいろありますが、まずは共有することから始まります。地域の大人も子供も一体となってワクワクしながら準備をする場をつくり、いよいよ来るんだという思いを共有する。その準備をしていきたいと思います。

◆山本 一番大事なのは私も含め、皆で自転車競技に关心を持とうということですね。5月は自転車月間でさまざまな大会が開催されます。海外チームもたくさんやってきますので、選手と接する機会を増やそうと思います。そこからがスタートですね。知っている選手が出場するとなれば2020年オリンピックイヤーも盛り上がるでしょう。まずは首都圏のサイクリストが気軽に走れる環境を整えること。それがベースになり、サイクリストをいつでも歓迎しますというメッセージを発信していきたい。

日本サイクルスポーツセンターのマウンテンバイクコースは選手しか使えない難しいコースですが、県としては2020年以降、一般愛好者にも使えるようにしたいと考え、2021年春にもイベントを企画しています。実は伊豆半島にはマウンテンバイクで走れるコースがたくさんあり、BMXも楽しめるコースがありますので、すべての自転車競技が楽しめる可能性があります。

◆芹澤 伊豆箱根鉄道では鉄道以外にも路線バスやタクシー等を活用し、同業他社の富士急行や東海バス等とも連携し、地域の足としてお役に立てればと思っています。駿豆線沿線地域活性化推進協議会では防災の観点から地域の皆さんと連携し、

防災訓練等も行っています。昨夏には三島警察署主催で列車を使っての避難訓練も行いました。今後もそういった形で協力していきたいと思ってい

ます。

◆大石 今日はありがとうございました。

〈パネリストプロフィール〉

◇パネリスト

■山本 東(やまと・あすま)氏 静岡県文化・観光部スポーツ局長
1963年静岡市生まれ。86年静岡県庁に入庁後、港湾振興、国際、観光などの関係部署を経て、2015年スポーツ交流課長、17年オリンピック・パラリンピック推進課長、18年4月より現職。

■木部 一(きべ・はじめ)氏

静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会サイクルスポーツ部会長
1964年沼津市生まれ。チャイナエアラインを経て2013年(株)シード社長室次長に、17年営業企画部企画推進室次長。15年より静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会サイクルスポーツ部会長。16年県サイクルスポーツ協議会安全部会委員。18年県サイクルスポーツの聖地創造会議企画広報幹事会幹事などを兼任。

■芹澤章裕(せりざわ・あきひろ)氏 伊豆箱根鉄道株式会社総務部総務課長
御殿場市生まれ。1984年プリンスホテル入社、91年伊豆箱根鉄道(株)に転籍。レジャー事業の営業企画を経て、2010年より現職に。プレスリリー

スやマスコミ対応など広報を担当。休日には、県東部や山中湖、神奈川県を自転車で楽しむ。

■飯島 誠(いいじま・まさと)氏 ブリヂストンサイクル株式会社

1974年東京都生まれ。中学より自転車競技を始める。2000年シドニー、04年アテネ、08年北京五輪に出場。11年ブリヂストンサイクル入社。リオ五輪中距離ヘッドコーチを経て、18年TEAM BRIDGESTONE Cycling総監督。19年よりブランド推進部。

◇コーディネーター

■大石人士(おおいし・ひとし)氏 静岡経済研究所 常務理事

1956年藤枝市生まれ。静岡銀行入行後、82年静岡経済研究所出向。2005年より研究部長、12年理事。専門は地域経済、企業経営、まちづくり、行政改革など。静岡地方労働審議会委員、静岡県社会資本整備重点計画・推進会議委員など、県をはじめ島田市、藤枝市、三島市などの委員も務める。サンフロント21懇話会のシンクタンク〈TESS〉研究員。

『全体会』

日時／2018年12月4日(火) 15:00～ 会場／沼津リバーサイドホテル

講演 & トークショー



2018年12月、サンフロント21懇話会2018年度全体会が開催され、今年度の活動報告と来年度方針案が示された。続く講演&トークショーでは高知市の坂本龍馬記念館の設計デザインを手掛けた建築家高橋晶子氏（富士宮市出身）に、高知市民有志の力による記念館建設の経緯、設計デザインに込めた思い、今年リニューアルした新館の狙い等を伺った。終了後は高橋氏を交えた懇親会で一年の労をねぎらった。

主催者代表挨拶



静岡新聞社 社長

大石 剛

みなさまこんにちは。本日は年末のご多忙の中サンフロント21懇話会2018年度全体会に多くの皆さまにご来場いただき、誠にありがとうございます。

2020年の東京オリンピックパラリンピックの開催まで2年を切るというところに入っています。ご承知の通り伊豆市では自転車競技が開催され、小山町は自転車ロードレースのゴールになります。自転車競技はヨーロッパで非常に人気が多く、国内外から県東部や伊豆に多くの方が訪れるものと期待されます。この地域の魅力を発信する絶好の機会であり、当懇話会としても県東部地域・伊豆地域が自転車愛好者の聖地として発展していくために幅広い事業に取り組んでいきたいと思っております。

さて本日ゲストにお招きした高橋晶子さんは富士宮市出身の建築家で、明治維新150年を記念し、今年新館がオープンした高知市の坂本龍馬記念館の設計を手掛けられました。私も実際に見学させていただきましたが、桂浜に向かってそびえる斬新なデザインが高く評価されています。設計デザインをされるときは実用性や耐久性も重視されるということで、建築や設計の興味深い裏話をうかがえるのではないかと思っております。

最後になりましたが今年懇話会は25年目になります。これもひとえに皆さまのご支援ご協力の賜物と思っております。心より感謝を申し上げ、主催者の挨拶とさせていただきます。本日はご来場誠にありがとうございます。

懇話会代表挨拶

2018年は静岡県東部にも地域創生のための新産業に関する話題がいくつかありました。4月には伊豆半島ジオパークが世界ジオパークに認定され、小山町が2020年五輪の自転車ロードレースに決まり、三島市函南町が箱根町小田原市と共同申請した「箱根の石畳みち」が日本遺産に認定。富士山世界遺産センターも1年前に富士宮市に新設され、1年経たずに入場者は50万人を突破しています。地元沼津にはラブライブサンシャインの人気で若者が多く訪れ、活性化しています。これら資源が一過性ではなく、今後も続くレガシーとなるよう、皆さまと共に育てていければと思います。

当懇話会の2018年は5月の総会で作家の林真理子をお招きしました。革命には3人の中心人物—革命を考える人・実行する人・革命後の社会を創る人が必要だといわれますが、これを明治維新になぞらえると考える人は坂本龍馬、実行したのは西郷隆盛、革命後の社会の礎をつくったのが大久保利通ということになります。そんなこともあって大河ドラマ『西郷どん』の原作者である林真理子さんにご講演いただきました。

伊豆地区分科会「伊豆の観光ブランド化」、東部地区分科会「人生100年時代を迎えて」も無事終わり、本日の全体会を経て残すところ、来年3月の富士地区分科会を最後に本年度の活動も終わります。また詳しくご案内申し上げます。

本日の全体会の前に運営委員会を開催し、2019年度の活動案を討議してまいりました。2019年は政治の世界では統一地方選挙、参議院選挙、消費税増税、ラグビーW杯と大きな出来事が控えております。そんな中、当懇話会の活動も、2018年度の4テーマを基本に、派生する具体案について煮詰め、2019年にふさわしい内容となるよう練ってまいりたいと思っています。正式に活動案としてご提案申し上げました際には、皆さま方の絶大なご支援ご協力を願いするところであります。



伊東法律事務所所長

伊 東 哲 夫

講 演

「建築のデザインと実用性」 龍馬記念館の設計で、 私が考えたこと

建築家 高橋晶子氏



建築の三要素「用」「強」「美」

今日はこのような機会を作っていただき、誠にありがとうございます。最初に自己紹介しますと、私は富士宮市出身で、76年に県立富士高校を卒業し、京都大学建築学科を経て東京工業大学大学院の篠原一男先生（沼津市出身）の研究室に進みました。そこで建築の実質的な勉強をさせていただき、独立後、夫と共同事務所を設立。2004年から武蔵野美術大学で教えています。

ローマの建築家ヴィトルヴィウスによると、建築には3つの側面があり、まずは「用」。今の時代、熱環境の制御を高める実用性が必ず求められます。これがなければ建物を造ろうという直接的な動機になりません。次に「強」。日本は地震大国ですから防災機能や耐震・耐久性は当然求められます。そして「美」。美しく居心地がよく、特徴ある芸術性や特定の個性があること。強がなければ用は足せず、強と用がなければ美は形だけのもの。いくら造形があってもどういう理由でそういう形になったのか、構造としての美しさや実用性を説明できこそ美が成り立つ。そして美がなければ建築とはいえない—そんなヴィトルヴィウスの考え方を私もベースにしています。

建築事業に直接関わったりご自分の家を建てた経験のある方はお分かりだと思いますが、建築は優先順位を決めて一つの筋を作るということが肝要です。1軒の家を造るとき、ご夫婦の意見がぶつかる場面がしばしばありますね。そういうときは優先順位が大事になります。ビル建造物もそうで、ユーザーの声を聞いて優先順位を決めながら一つの筋を決めていきます。

龍馬記念館プロジェクトの経緯

龍馬記念館はシンボルとしての建築物でした。高知市の桂浜に行くと必ず目にする龍馬さんの銅像は、昭和3年に地元の青年有志の募金で建てられたもので、今でも桂浜=龍馬像というように大変親しまれています。

1985年、龍馬生誕150年を記念して今度は記念館を造ろうということになり、青年会議所の皆さんが高い全県に呼びかけて「龍馬生誕150年記念事業実行委員会」という募金団体を設立し、募金活動をスタートさせました。

高知県というのは沖縄に次いでGDPが低い県ですが、逆に人の顔はよく見えるという土地柄。そこで委員会では敷地を市から借り、建物が出来たら県に寄贈するという企画を立て、公開で設計コンペを行いました。最初に地元建築家グループに頼んだところ、天下の坂本龍馬の記念館を簡単に絵にすることはできない、全国規模で公募しようということになったようです。1988年、応募総数475案の中から運よく私の案が採用されました。募金は8億円集まり、高知県からも2億円の助成を得て1991年に記念館が完成しました。

募金活動の過程では、懇親会の会費の一部を募金に充てたり、寄付金付きテレフォンカードを作ったりしました。カードには〈フクちゃん〉の横山隆一さん、はらたいらさん、やなせたかしさん、〈土佐の一本釣り〉の青柳裕介さん、黒鉄ヒロシさんら高知出身の著名な漫画家が龍馬をモチーフにイラストを描いてくれました。

記念館の発案者は橋本さんという塗料メーカーの社長さんで、まちづくりで言うところの「バカ

モノ」。大の龍馬ファンで、記念館が出来るまで髪を絶対に切らないと誓いを立て、龍馬の恰好をして全国行脚したのです。「この人大丈夫か？」と心配されるので（笑）、周囲が一生懸命フォローしました。橋本さんたちは素晴らしいチームワークを發揮して初志貫徹し、完成のあかつきにはお相撲さんのような断髪式までやり、今でも龍馬ファン交流の要として海外にまで龍馬会を広めています。こういう情熱の灯を消さないようにと建てられたのが龍馬記念館でした。

環境と一体化したデザイン

私のデザインの起点は、海と空が出会い、龍馬の声が聴こえてきそうな〈桂浜〉という場所です。建築ですから実用性を考え、展示物や動線をどう配置するかを考えなければならないのですが、ここは記念館にもかかわらず展示物がないため、中身なしで器としてのシンボルを造ることから始まりました。

桂浜の丘にはもともと長曾我部家の最後の城があり、東は室戸、西は足摺まで遮るものがない黒潮の絶景が望めます。こういう場所に来たら人は何をしたいか、この地形に合った建物はどういうものかをスケッチに落としました。縁の中のくねくねした坂道を登っていくとバーッと太平洋が開ける。それまでは空しか見えなかった坂道の先に海がある。龍馬さんが前のめりになって大政奉還まで成し遂げ、海洋ロマンをたぎらせた姿が浮かびました。その姿は当時、独立を模索していた30代の自分の姿と重なったのです。

まず朱色のスロープが海に向かって登っていくイメージ。反対側には水平にガラスの筒の箱のようなものが海に突き出し、スロープの先端とぶつかるような構成です。これを断面で見ると上がガラスの展示室、真ん中にロビー、地下に展示室になるのですが、とにかくスロープで海に向かっていこう、ガラスの箱から海を眺めようということを強調しました。順路もなく屋上から地下まで自由に散策するように回れるようにした。屋上はものすごく太陽に照らされて明るく、海と一体になる。地下に行けば行くほど落ち着いて、地形の中に入していく感覚です。

実際に造ってみたところ、自然環境が豊かで、天候や時間によって建物の姿が変化します。ガラ

スの窓に波が映ってキラキラしたり、夕方になると内部が映し出されたり、周りとの環境調和がいかに大切かが分かりました。

記念館を育てた2人の館長

今年リニューアルした館は「龍馬と心を通わせ、龍馬と遊ぶ」ということをテーマにしたものです。27年前の1991年に龍馬記念館が完成したとき、実は当時の橋本大二郎高知県知事から「ホトケ造って魂入れず」と言わされました。建物は造ったが観るべき展示があまりにも少ないと指摘です。一に風景、二に建物、三に展示で、収蔵品は数十点程度。龍馬関連の文化財は京都の博物館所蔵や個人所有になっており、新参者の記念館にはなかなか来ません。展示物を楽しみに龍馬記念館に来られた方からも「当てが外れた」という厳しい声が聞かれました。

いずれは収蔵品も集まるだろうと想定し、収蔵庫をしっかり作っておけばよかったのですが、当時はその資金がなく、計画していた収蔵庫は他に転用されてしまいました。他から借りたくても「潮流が強いところだから本物の文化財は貸せない」と言われていたのです。

しかし諦めるわけにはいきません。初代館長の小椋克己さんは「記念館は龍馬への入口」というコピーにし、メディアへのアピールや講演会活動を通して運営努力を重ねました。少しずつ寄贈や寄託の数が増え、1000点を超えたあたりで収蔵庫が手狭になった。龍馬の資料は手紙が多く、地下展示室には手紙をバーッと広げて展示するスペースがない。そこで新館建設計画が持ち上がったのです。

初代小椋館長も2代目の森健志郎館長もメディア出身の方でした。小椋さんは元アナウンサーで、かの金嬉老事件で寸又峠に籠城した金嬉老にテレビメディアで唯一、単独インタビューをしたという人です。龍馬記念館には展示物はないが、小椋さんの現代人にもわかりやすい案内や解説で龍馬への理解も深まる評判でした。とくに龍馬の人となりがイキイキと伝わる彼の手紙を軸に解説されたのが奏功したようです。

2代目森館長は元高知新聞記者で、龍馬のメッセージを発信するかのようにイベントや交流事業を活発に行いました。森さんいわく「龍馬は平和の

象徴」。あるときは軍神のように、またあるときは司馬遼太郎が描いた歴史ヒーローのように語られたりしますが、いずれにせよ開館以来20年、この2人の館長が記念館をしっかり育ててくれました。

2018年4月リニューアルの新館

高知県の予算も付いて新館建設計画が動き出しました。旧来の本館は体験型ミュージアム、新館は文化財収蔵の歴史資料館という役割分担の構成にし、連絡通路で両館をつなげるというデザインにしました。順路としては新館から入り、本館から出るという順になり、まずは赤いスロープを登ってガラスの展示室に入つてもらいたいという私の目論見は崩れてしまったのですが、20年間も経つとご高齢のお客様がスロープを登るのが大変だという場面をしばしば見かけます。新館が出来ると所蔵品をじっくり見る人が増え、滞在時間も長くなるので、本館スロープは外観上の造形として、歩きたい人に歩いていただくということになり、デザインと実用性は永久不滅に一体化されることはないのかと痛感しました。

2018年4月にオープンした際は、高知県の関係者に「本館を壊さないでくれてありがとう」とお礼を申し上げました。限られた面積の中で、当然、本館を壊して建て直すという選択もあったと思いますが、なんとか2館併設できた。代わりに新館はキツキツのスペースに建つことになり、子持ちシシャモのような建物になってしまいましたが（苦笑）。

新館は潮風対策として二重の外壁と窓にし、漏水を防ぐ構造にしました。温度変化は古紙や掛け軸等の展示品にダメージを与えるため、照度も極力落としました。高知の明るい海際の光から守るために、鉄筋コンクリートの建物をダブルスキンで覆い、隙間の道のようなところをロビーにした、いわば「蔵」ですね。

入口の階段からだんだん目が慣れてくるように照明を暗くし、展示室は十分照度を落とす。同時にチラチラと小窓から光が入りますが海は見えない。このデザインを館長は「幕末のまだ未来が見えない志士たちの心境のようだ」と解説してくれました。

隣室には同じ土佐出身のジョン万次郎の企画展

示室があり、レクチャーホールでは社会科見学に来た子どもたちに動画を見てもらったり龍馬ファン交流の場として活用してもらうようにしました。高知県は森林県で地元木材を積極的に使うという方針でしたので、不燃処理した県産材を多用しました。

新館で龍馬がどんなことを考えていたのか手紙や文章でじっくり心を通わせてもらった後は、本館のガラスの展示室でカジュアルな雰囲気を楽しんでもらいます。子どもたちが気軽に触れる参加型展示で、名刺を造ったりスタンプを押したりゲームができたりします。ガラス箱の中におもちゃ箱が入ったようなイメージでしょうか。

屋上では海を存分に眺めてくつろいでもらい、下階には図書コーナー、地下の展示室だったところは幕末写真展示コーナーにし、龍馬と関りのあった志士たちの紹介をしています。これが歴史ファンにはとても好評のようです。

建築は触媒

龍馬記念館が完成して四半世紀以上経ちました。完成前にインタビューを受けたとき、「私にとって建築は子どものようなもの」と答えたのですが、完成後は設計した人間は子育て=運営には関わません。それを小椋館長が見事に引き継いでくださいました。

最初は桂浜という場所からイメージし、展示の中身がない状態で造り始め、中身が増えてきたら増設することになった。自然の流れであるようにも感じますが、これからもこの場所の時間は続いていると思います。建物は存在しているだけで周辺が変わり、人の気持ちが動いたり、行動が促される。実用のみならず五感が働いて人が生き生きとする・・・そんな触媒効果をもたらします。何かわからないけど心地が良く、「ここだからぴったりハマる」というのが、理想の建築ではないかと思っています。

〈講師プロフィール〉

高橋晶子（たかはし・あきこ）氏

建築家 ワークステーション共同主宰・武藏野美術大学教授

1958年富士宮市生まれ。76年富士高校、80年京都大学、

86年東京工業大学大学院を経て篠原一男氏のアトリエ勤務。

88年坂本龍馬記念館構想設計競技で最優秀となり、ワーク

ステーションを共同主宰。「高知県立坂本龍馬記念館」ほか

住宅、地域施設、美術館やテレビ局など幅広く建築設計を手

がける。公共建築賞、グッドデザイン賞など受賞は多数。

2004年武藏野美術大学教授。

トークショード

建築家 高橋晶子氏

聞き手 SBSアナウンサー 牧野克彦



(牧野) 龍馬記念館を造られる際、ご苦労もいろいろおありだったと思いますが、一番苦労されたことは。

(高橋) 募金が集まり切れない段階で設計を始めたことですね。予算が決まってから始めるのが普通ですから。募金と一緒にスタートというのは、駆け出しの自分にとっては経験があってもなくてもレアケースには違いありませんが、募金が集まらなかつたらダメになるかもしれないという不安を周囲に持たれていた状況でした。景気が後退している時期でしたから。龍馬人気で全国から資金が集まるかと思ったらそうでもなく、気持ちだけは焦っていました。

完成後は県立の建物になったのですが、県もある意味大変だったと思います。自分たちが企画し構想したものではなく、出来たから運営しろとポンと渡されたわけです。募金団体も私自身も企画運営のプロではなく、「出来ちゃったけどどうしよう」という状態でした(笑)。

(牧野) もともと使われ方が提示され、設計されたわけではなかったんですよね。

(高橋) 手紙が何メートルあるから何メートルの展示ケースがほしいとか具体的な指示があつてしかるべきですが、それがない。場所と募金目標額だけが決まっていて、後はまったくの自由でした。

当時は私も若くて「自由だ!」と前かがみに転んでいくように進み、高知の青年有志の皆さんは皆さんで、いったん預かった募金は返せない状態で心理的なストレスはあったと思いますが、こっちはこっちで「高知の人はなんて面白いんだろう」と見ていました(笑)。

大きな声ではいえませんが、実は完成後、雨漏りがしたんですね。私の案が通ったとき、地元の建築家の皆さんからは「必ず雨漏りする」と言わっていたのです。「高知の雨を知っているのか?下から降って来るんだぞ、台風は必ず来るぞ」と。実際に建てたらやはり少し漏れたんです。これは建築家にとって不名誉なことで、施工主の信用を失うところですが、小椋館長は雨漏りがするたびにきちんと報告してくださり、もちろんそのたびにアフターケアに行きました。高知は遠方ですから、何もなければ設計が終わった段階で疎遠になるところ、雨漏りのおかげでお付き合いが深まったわけです。

(牧野) 新館の設計を担当されたのもその流れで。

(高橋) 新館の設計者指名にあたっては、県立の建物ですから公募のプロポーザルで選ぶのが当然ですが、記念館自体が募金で造られた特殊なケースで、完成後もそのような形で関わらせてもらいましたので、ひょっとしたら公募の際、我々の提

案に甘い点数を付けてくれたのかかもしれません。

(牧野) ところで高橋さんは富士宮のご出身ということですが、子どもの頃から建築家を目指しておられたのですか。

(高橋) 私の年代で建築家を目指す女性は少なかったと思います。とくに女子大の住居関連科ではなく共学の工学部建築科となるともっと理系でなければ就職できなかったのです。進路を決める時、父に建築か美術に行きたいと言ったら「お前には入口はあるが出口はない」と言われてしまいました。今の子なら冷静に受け止めたかもしれませんのが、当時、富士宮の田舎で怖いものなしの性格でした(笑)。ところが実際に工学部に進んでみると女子はいないし、就職関係の雑誌も男子には来るが女子には来ない。本当に出口がないかも知れないと焦りました。

(牧野) 大学進学前は沼津の予備校にも通わっていたそうですね。

(高橋) もともと美術が好きだったので、美大も受験し、合格していました。デッサン実技の受験勉強のため沼津の美大系予備校に通っていました。沼津の街はよく歩きました。今はその美大で偶然、教べんを執っています。

(牧野) これまでたくさんの大型施設の設計も手掛けたこられたということですが。

(高橋) 印象深かったのは、ちょうど龍馬記念館の設計をしていた頃、並行して設計した警察施設です。留置場のような専門的な施設はひな形が必要ですが、留置場の設計図はさすがに公開されず、参考書もないでの、警察で資料をお借りし、見終

わったらお返しするという繰り返しで手間がかかりましたね。警察の建物というのは独特で、自殺のリスクがあるという理由で吹き抜けロビーがNGなんです。ユニークなセキュリティだなと思いました。

(牧野) 静岡の建築に何か特徴はありますか。

(高橋) 静岡の土地柄を統計上で調べてみたら、全国でちょうど中間ぐらいのデータが多いですね。逆に高知は1位か2位か極端なんです。建築に例えてみると静岡の気候は極端に暑かったり寒かったりしなくて温暖ですから、ひさしの下や縁側がものすごく使いやすい。中と外の中間をうまくいかせるんですね。なんでも中庸で個性やインパクトが弱い県といわれますが、一年のうちで9~11月ぐらいの過ごしやすい時期に、とても魅力的な場所が造れるのが静岡の強みだと思います。

(牧野) 防災面ではいかがでしょうか。

(高橋) 以前、静岡新聞を拝見したとき「今週の地震」というコーナーを見つけてビックリしましたが、今は高知県のほうが防災意識が高く、津波避難タワーがぽこぽこ出来ていますね。

(牧野) 今、造ってみたい建物はありますか。

(高橋) 最近、木造で大きめの校舎やコミュニティセンターを造らせてもらいました。今、住んでいる横浜市では耐火条件が厳しく、難しいのですが、大型木造施設をもっと造りたいと思っています。

(牧野) 静岡県東部で何か計画がありましたら。

(高橋) ぜひお願いします。

(牧野) 今日はありがとうございました。

ラジオマイトーキー【平成30年12月23日放送】



さのとみかず
佐野富和氏
(株)エンビプロ・ホールディングス
代表取締役社長

EV用バッテリーのリサイクル

〈お話のポイント〉

♦資源リサイクルの会社です。再生可能エネルギーにも取り組んでいます。身障者の就労支援も行っています。平成30年6月には東証一部に上場し、現在13の子会社があります。

♥少年時代は劣等感を持っていましたが、15歳で生徒会長になった時に父親が涙を流して大変喜んでくれたことが忘れられなくて、代議士秘書などを経て27歳で家業を継ぎました。家族、社員、富士宮市、静岡県、日本に貢献したいですね。社員には気持ちよく働いてもらう段取り、仕事そのものに対して魅力を持たせるこ

△モットー 人は必要な時に必要な事を必然として出会う

△趣味 仕事と墓参り

△出身地 富士宮市

とが私の仕事です。

♦ヨーロッパではサーキュラーエコノミーと言ってリサイクルではなくリユースの考え方です。ある電話会社は携帯電話を製造する時にCO₂削減を図るばかりでなく、協力会社のサプライチェーンにもCO₂の削減をしないとモノを買わないという環境要素が入っています。

♣今年、電気自動車(EV)用のリチウムイオンバッテリーのリサイクル事業へ本格参入しました。コバルト、ニッケルなどレアメタルの回収を行っています。

ラジオマイトーク

【平成31年2月17日放送】



なかの ただたか
中野 宰孝 氏
(株)平安
代表取締役社長

県東部に22の葬祭会館

〈お話をポイント〉

◆昭和41年の設立以来、県東部地域で冠婚・葬儀にかかるサービスを行っています。沼津市をはじめ4市5町に22の葬祭会館があります。冠婚葬祭互助会会員は8万人、6万世帯に加入いただいている。会葬会館を会員の住む近くに展開しています。

◆特殊なサービスですので、ご遺族の方々への特別な気遣い、二度とできないサービスですのでミスはしない、ご遺族のご希望に沿つて丁寧に対応することが大切です。

△モットー 日に日に新たに、日に新たなり
△趣味 写真撮影、神社巡り
△出身地 沼津市

◆ご会葬の皆様には、故人やご遺族のことをより知りたいことで参列の意義が深まります。遺影写真ばかりではなく、故人の思い出深い写真、ご遺族との写真を大きく引き伸ばして飾り故人を偲ぶ思い出コーナーはご希望のある場合にお勧めしています。女性向に白いリムジンの靈柩車もご用意しております。

◆近年はご会葬者が減っています。家族だけで行いたい希望も増えていますが、葬儀はしっかり送ってあげたいという希望も多いです。

サンフロント21懇話会の会員情報

■新たに入会された方

- ◇特定非営利活動法人沼津観光協会
- ◇(一社)伊豆市観光協会
- ◇(株)証券ジャパン沼津支店
- ◇富士木材(株)
- ◇(一社)三島建設業協会
- ◇(株)大瀬建築事務所

- | | |
|---------|-------|
| 会長 | 土屋雄二郎 |
| 代表理事 | 小森 泰信 |
| 支店長 | 大塚 力 |
| 代表取締役社長 | 川口 祐介 |
| 専務理事 | 杉山 嘉章 |
| 代表取締役 | 大瀬 博敏 |

■会員の変更

- ◇積水ハウス(株)沼津支店
支店長 田村 泰樹 → 副島 敏昭
- ◇大和ハウス工業(株)沼津支店
支店長 三浦 洋一 → 熊沢 一之
- ◇住友生命保険相互会社沼津支社
支社長 大久保勝也 → 杉本 恵介
- ◇静岡県熱海財務事務所
所長 佐藤 裕靖 → 鈴木佳代子
- ◇静岡県賀茂健康福祉センター
所長 大村 新治 → 山下 正芳
- ◇静岡県賀茂農林事務所
所長 三輪 照光 → 伊藤 晃
- ◇静岡県下田土木事務所
所長 松木正一郎 → 森本 哲生
- ◇静岡県東部地域局
伊豆観光局長 神山 正之 → 西宮 寿和
- ◇静岡県工業技術研究所沼津工業技術支援センター
センター長 山本 寛人 → 大川 勝正
- ◇静岡県富士健康福祉センター
所長 酒井 仁志 → 土屋 正純
- ◇静岡県富士土木事務所
所長 大石 俊一 → 青木 直己
- ◇静岡県賀茂地域局
次長兼地域課長 和田 誉雄 → 柴 浩行
- ◇日本電気(株)沼津支店 支店長 村田 武志 →
日本電気(株)静岡東部支店 支店長 升森 淳治

- ◇(株)安心堂沼津店
店長 田中 博文 → 青島 伸明
- ◇明治安田生命保険相互会社沼津支社
支社長 加部 慎也 → 今田 孝司
- ◇綜合警備保障(株)沼津支社
支社長 鈴木 智昭 → 西内 善信
- ◇静岡県熱海土木事務所
所長 佐藤 勝彦 → 岩崎 泰克
- ◇静岡県賀茂地域局
局長 北村 誠 → 山口 武史
- ◇静岡県下田財務事務所
所長 中島 敏雄 → 山下 哲宏
- ◇静岡県東部健康福祉センター
所長 後藤 瞳 → 黒岩 康
- ◇静岡県東部農林事務所
所長 黒柳 康江 → 塚本 忠士
- ◇静岡県沼津財務事務所
所長 片野 光男 → 田嶋 源
- ◇静岡県富士財務事務所
所長 渋谷 妙子 → 中島 敏雄
- ◇静岡県東部地域局
次長 市川 顯 → 次長兼地域課長 石川 哲史
- ◇日本通運(株)静岡警送支店
支店長 渡邊 浩志 → 佐藤 実

■肩書・社名の変更

- ◇(株)鈴木工務店 千葉 慎二
→ 代表取締役社長 → 代表取締役会長
- ◇一般財団法人ふじのくに医療城下町推進機構
→ 公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構